千代田® NEWS

2022.11 *Vol 28*
サンアグロ(株)

寒い時期の肥料は 千代田®化成 にお任せ

記録的な猛暑だった夏は終わり、すっかりと秋の装いになってきました。気象庁の3カ月予報では、今年の冬は例年と比較して気温が低くなる可能性があると発表されています。そんな寒い時に恋しくなるのが美味しい秋冬野菜を使った鍋料理で、ハクサイやネギは欠かせない食材です。
寒さで生育の遅れが心配されるときこそ千代田化成の出番です。低温でも良く効く千代田化成は寒い時期の肥料にぴったりで、少量の水でも素早く溶けて根圏へ拡散していきます。根の活動がにぶくなっても、効率的に吸収されますので、安定した生育や収量の増加が期待できます。

千代田化成には形状が違う4タイプがあります

各タイプの見た目の違いや特徴をご紹介いたします。
作物の種類や施肥の場面、用途によって使い分けることで、より一層の効果を発揮します。

P品(ポーラス)

◆もっともポピュラーな粟状千代田。
◆各種作物の元肥･追肥に。
◆特に高級志向の篤農家に愛用され、家庭菜園、ガーデニングに好適。

F品(ファイン)

◆P品の細粒部分を液肥用に。
◆溶けやすさは抜群で潅水と同時施肥や、スプリンクラー施肥にも好適。
◆溶解時の泡立ちを抑えた処理。

L品(エル)

◆P品の中からフレークの大きなものを厳選。
◆果樹、茶園などでの使用が多い。
◆千代田シリーズでは最も嵩が多い。

A品(エース)

◆粟状千代田を粒状化。
◆風のある日でも使いやすく一般露地野菜の追肥場面で活躍。
◆溶解スピードも遜色なし。

生育時期ごとのお薦め 千代田®化成 の使い方

育苗の中～後半の追肥

水に良く溶ける千代田化成は吸収も早いので、育苗の中･後半で使用すると活着の良い元気な苗を育てることが出来ます。作物によっても異なりますが、**P品**もしくは**F品**を500倍～1000倍に薄めて何回か施用して下さい。

定植時の値付け肥え

移植の直前に「根付け肥」を目的に使うのも効果的です。**P品**もしくは**F品**を500倍で溶かした液を根鉢にたっぷりと吸わせてから定植すれば、活着が早くなりスタートダッシュにつながります。また、**A品**もしくは**L品**を定植直前の圃場に5～10kg/10a程度を施肥する方法も効果的です。

本圃での基肥･追肥

A品は他の肥料と同じように動力散布器などを使った方法で施肥できます。水への溶け方や効き方は千代田化成の特長そのものですので、寒い時期でも抜群の施肥効果が期待できます。
すでに液肥を潅水設備などで施肥をしていれば、**P品**もしくは**F品**を水に溶かして施用するのが効率的です。下図にあるような方法で手軽に液肥を作成することができます。

☆千代田化成の原液(10倍液肥)の作り方

①200ﾘｯﾄﾙ以上入る容器に約100ﾘｯﾄﾙの水を入れる
②千代田化成 20kg 1袋を容器に加えて数回かき混ぜる
③さらに水を加えて200ﾘｯﾄﾙ とし10倍液のできあがり

→ さらに10倍に薄めて使用

凍霜害の不意打ちに グロースター® で防御

グロースターは糖を含み、100倍または状況によっては50倍という高濃度散布が可能な葉面散布肥料です。グロースタートリオとして効果の異なる3種類をラインナップがあります。
- ●グロースター1号：日照不足や根圏環境の悪化による生育不良からの回復
- ●グロースターM：養分吸収を促し体内の同化作用を活発化する
- ●グロースター2号：木ぼけなどチッ素過剰の生育を抑える

左の写真は、**グロースター1号**を葉面散布して乾いた後、マイナス5℃の状態に1時間置いたコマツナの状況です。
無処理では、葉が委縮したのに対して、グロースター1号を散布した場合ではほとんど影響がみられませんでした。
低温の予報が発表されたら、すぐにグロースター1号を葉面散布することで、凍霜害の軽減が期待できます。

サンアグロ SUN AGRO CO., LTD
編集：九州営業部　鈴木
次回は12上旬月ごろを予定しています